

論説文の読解 (人生・科学)

P.5
S
P.6

基本

8/5
(土)

- (1) 与えられたものを覚えるという点で受け身の発想だ(から)
 (2) イ
 (3) A オ B イ
 (4) 古来さまざまな人たちが共通していつていること
 (5) 自分の分野にこだわらず、もつと広い視野でものを見えるということ
 (6) ウ
 (7) ア
 (8) イ
 (9) 既成の理論やを育てていく(人)
 (10)

解答

○解説○

- (1) 挿入する文の「……ことによつて、独創性に富んだ新しい考え方が生まれてくるのだ」に着目し、「どのように独創性に富んだ考え方が生まれてくるのか」が書かれている段落を探す。
- (3) 「ある事柄を記憶するというのは、与えられたものを覚えるという点で受け身の発想」とあり、「この反対に独創性というのは……進取的な発想」とあることを押さえ、「この反対に」に着目して考える。
- (4) Aのあとの「独創性」というのは……自分の頭で考えながら自分の力で実践していく能力」は、前の「独創性」というのは……進取的な発想を会得していなければできない」を要約しているので、説明のはたらきをする接続語があてはまる。
- (7) ⑤段落が、「たとえば」という例示の接続語で始まっていることに着目する。
- (9) ③段落が、「では」という話題転換の接続語で始まっていることに着目し、最初の文の「どうすれば独創的な頭の良い人間になることができるのだろうか」という内容が述べられているのは、どの段落までかを読み取る。
- (10) 最後の文に「本当に独創的な人間だといえる」とあることに着目し、どういう人が「独創的な人間」なのかを読み取る。

古文の読解

P.22

標準

1 かせぎ

- (1) ア
 (2) ウ
 (3) 阿
 (4) 阿
 (5) 阿
 阿山の奥深くに五色のしかが住んでいる(ということ)。

解答

○解説○

- (1) 川でおぼれている男が「私をだれか助けて」と叫んだ声を聞いて、川を泳いでそばに来て助けたのは、「かせぎ」。
- (3) 空欄の前の「ゆめゆめ」は、下に打ち消しの言葉を伴って、強い禁止「決して……するな」という意味を表す。五色のしかがいたら知れば、人はその皮を取ろうとして殺すだろうと、しかが恐れていることを読み取って考える。
- (4) 決してもらすことはないでしょう、と約束したのはどんな内容か。
- (5) 助けてくれたしかへの恩を忘れた男の行動を、人倫に反すると大王は判断したのである。